

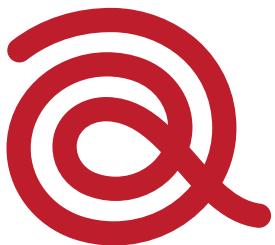
支  
報

援

事

業  
集

告



愛芸アシスト基金

2015  
年度



## ご賛同いただいた皆様へ

日頃は、愛芸アシスト基金にご支援をいただき、また愛知県立芸術大学の展覧会や演奏会にお運びいただき、ありがとうございます。皆様からのあたたかいご支援のもと、平成27年1月より愛芸アシスト基金を立ち上げ、本学の活動支援を行ってまいりました。皆様のご厚意に深く感謝申し上げます。

本学は、今年平成28年に創立50周年を迎えました。長年にわたって、この長久手の地より芸術文化の発展に尽力してきました。半世紀の間に、美術・音楽両分野より芸術家・研究者・教育者を日本のみならず、世界で活躍する卒業生を輩出することができました。これもひとえに、県民の皆様、地域の皆様そして何より愛芸アシスト基金にご賛同いただきご厚意を寄せていただける皆様のおかげです。

前身である愛知県立芸術大学を支援する会(愛芸アシスト)での活動を更に充実させ、継承し、今後も芸術文化を担う人材育成の為、本学はこれからも皆様のご支援の元、引き続き芸術文化の発展に寄与するよう、また地域の皆様に愛される愛知芸大にしていくよう努力してまいります。変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

愛知県立芸術大学 学長 松村公嗣

### 01 オペラ公演「コジ・ファン・トゥッテ」

平成27年12月5日(土)、6日(日)、12日(土)  
長久手市文化の家、パティオ池鯉鮒

### 02 愛・知・芸術のもりから

平成27年5月～平成28年3月(毎月1回開催)  
SMBCパーク栄

### 03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援

平成27年4月～平成28年3月(展覧会開催回数22回)  
愛知県立芸術大学サテライトギャラリー

### 04 学生への公募

平成27年4月～平成28年3月  
18件(美術学部・美術研究科10件、音楽学部・音楽研究科8件)

### 05 干支展

平成27年11月14日(土)～11月22日(日)…11月13日(金)は寄附者向け内覧会・懇親会を実施  
愛知県立芸術大学サテライトギャラリー  
(※本年度より、美術学部同窓会主催で実施)

## 01 オペラ公演「コジ・ファン・トゥッテ」



## 02 愛・知・芸術のもりから



平成27年度のオペラ公演として、モーツアルト作曲「コジ・ファン・トゥッテ（女は皆こうしたもの 恋人たちの学校）」をお届けいたしました。長久手市文化の家での2公演に加え、知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）での1公演の合計3公演を皆様のおかげで成功裏に終えることができました。

特に今回は初めて、美術学部各専攻が持ち回りで担当していた舞台美術制作を、美術学部大学院の美術特別研究（プロジェクト研究5）の中で制作いたしました。

若き教員と学生たちの大膽な発想から生まれた芸術的で巨大な柱は、舞台中央に据えられ、それを中心にドラマが繰り広げられ、とても印象深い舞台となりました。

平成28年度は、モーツアルト最後の年に作曲された「皇帝ティートの慈悲」を取り上げます。ご期待下さい。

完売になり入手が困難になる場合もあるチケットも愛芸アシスト基金の寄附者の方々にはご準備させていただきます。

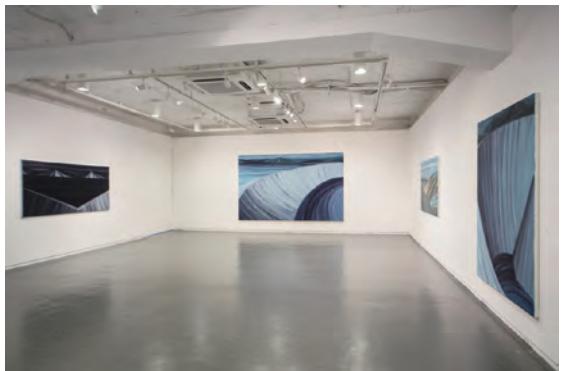
末吉利行（音楽学部）

「愛・知・芸術のもりから」は、愛芸アシスト基金のご支援のもと、名古屋の中心に位置するSMBCパーク栄で近年の卒業生・修了生を中心にレクチャーコンサートを行い、平成27年度で6年目を迎えることができました。昨年度は、声楽、ピアノ、弦楽器、管打楽器の近年の卒業生・修了生から計6グループが出演ましたが、毎回満席のお客さまに喜んでいただいております。これから大きく羽ばたこうとしている若く優れた才能にとって、このレクチャーコンサートは非常に良い経験となっております。この素晴らしい舞台が、更に愛知県立芸術大学の名を広く知らしめるとともに、クラシック音楽ファンを増やしていく存在になればと願っております。

福本泰之（音楽学部・学部長）



### 03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援



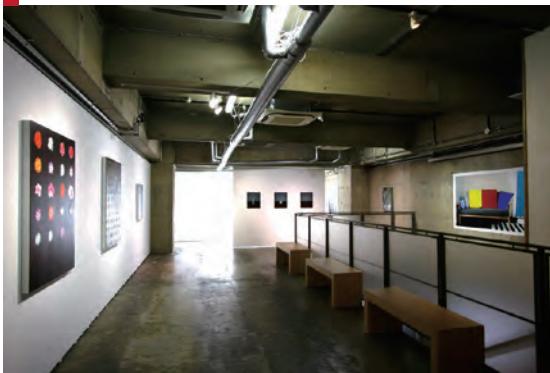
本学は、県民が芸術に親しむ機会を創出するため、名古屋の栄におけるサテライトギャラリーで展覧会を開催しています。平成27年度は、初めての試みでもある「愛芸50オークション」を含む22件の展覧会を、226日開催し、4,070の方々に鑑賞していただきました。おかげさまでサテライトギャラリーの認知度は高くなり、中でもプロの作家として活躍する卒業生・修了生の個展は、美術館及びギャラリーからも注目されるまでになりました。愛芸アシスト基金の支援により、本年度も無事にサテライトギャラリーにおける展覧会の運営・管理を行うことができました。心より感謝申し上げます。

平成28年度は国際芸術祭である、あいちトリエンナーレ関連事業としての企画や、作家によるギャラリートークなど、魅力ある展覧会を予定しております。

皆様にぜひ足をお運びいただければ幸いです。

寺内曜子（美術学部・芸術資料館長）

### 04 学生への公募



石場文子「Lagrangian point-バースペクティブカスタマイズ-」



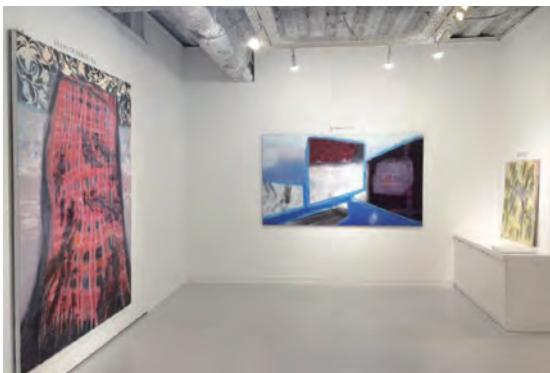
都築絵利奈「星星空展」



高田実季「メント森」



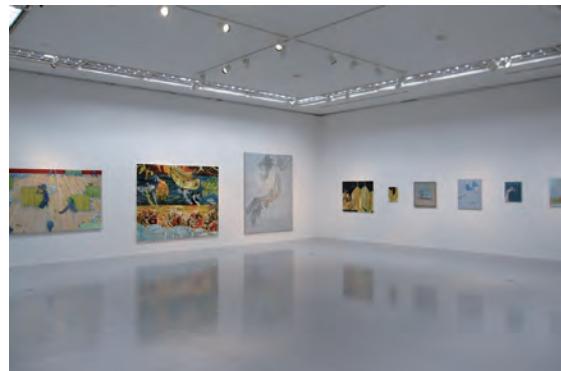
柴山亜里紗「ありさくら展『花子と蝶々』」



中山梨絵「存在と錯覚」



倉田明佳「倉田明佳展」



宮坂恵子「P.P.P.P.展」



肖俊「肖俊のイラストレーション個展」



中川真「ピアノコンサート」



白井薫「Arnold Strings」



須貝旭「『視界に満ちる海』展」



秋良美有「謝謝シスターズ」



高橋果歩「Dodici amore」



後藤里菜「作品発表会あとみせ」



川田真由「Amici del Canto 2015」



安田文野「Mon Favori」ピアノコンサート



福田ゆり子「クオーレムジカ」



松原瑠美菜「13人の女学生から」

事業名：Lagrangian point -パースペクティカスタマイズ-  
報告者：石場文子(美術研究科 博士前期課程 油画・版画領域2年)

サテライトギャラリーや市民ギャラリーなど名古屋で発表する機会はありましたが、県外で発表する展示に意味があります。発表の場であるGallery PARCは京都の美大生なら誰でも知っている現代美術ギャラリーで関西方面への愛知県立芸術大学の宣伝とともに、京都と愛知それぞれで活動している作家たちとの交流につながりました。昨年からギャラリーと大崎先生との話し合いで愛知県立芸術大学の学生、卒業生を紹介する展覧会として実現した企画ですが、運営は在学出品者が担当し、学生間で展覧会を作っています。県内にとどまらず、他の地域で発表の機会を持てたことは、大学や名古屋で発表したときとは違った反応や感想を聞くことができ、非常に刺激になりました。卒業後、活躍する先輩方と一緒に展示することも大きな経験となり、今後の活動の糧になりました。

事業名：メント森  
報告者：高田実季(美術学部 彫刻専攻3年)

昨年2014年に開催した展示『メント森』の2回目として、『メント森vol.2』を開催しました。自然や有機的なものと「memento mori=死を忘れるな」という警句から『メント森』を展示名とし、自然や生と死といった、壮大で人間の力の及ばないものをテーマの根底に置き、それが独自に解釈し生み出した作品を展示しました。

2回目となる今回は、作曲専攻の学生や学外の方にも参加をしてもらうことで、彫刻や油絵、陶芸、音楽といったより広いジャンルの作品展開になりました。特に音楽と美術では、日頃同じ大学で学んでいるものの垣根を越えて表現に触れ合うことが少ないように感じていたため、美術と音楽の空間の共有に挑戦しました。期間中、展示空間では無音から音が鳴りはじめる音楽を流し、また『メント森』をテーマにした即興演奏会も行いました。音が流れることで空間の緊張感などが変化し、音と作品同士の関係にも影響があることを実感しました。新しい感覚を感じることで、これから表現の幅が広がっていくと思います。参加者同士の交流も刺激的なものとなりました。普遍的な題材でありながらそれなりに想いを含んだ作品が並び、前回よりも多くの方に来て頂くことができました。

今回の展示から感じたことや学んだことを生かし表現を深めるとともに、より良い作品を生み出せるよう、制作を続けていきたいと考えています。

事業名：星星星空展  
報告者：都築絵利奈(美術研究科 油画・版画領域1年)

今回私は初めて学外で個展をさせていただきました。今までの学校の授業内の研究発表展のように複数で行う展示ではなく、自分一人で一部屋を使うのですべての責任が自分に降りかかってきます。部屋全体を考えどのような空間に仕上げていくのか、作品の見え方はどうなのか。その中でしか学ぶことのできない経験をすることが出来ました。

この展示を通して今の課題が明確になり、次の新たな一步をどのように踏み出すのかを客観的に見つめることができると確信しています。今後展示をする機会があれば今回の展示で学んだことを活かし、更に質の高い展示内容にしたいと強く思っています。

事業名：ありさくら展「花子と蝶々」  
報告者：柴山亜里紗(美術研究科 博士前期課程 彫刻領域2年)

平成27年9月15日-26日にGALLERY blankaにて-ありさくら展-花子と蝶々を開催しました。  
ありさくらとは、柴山アリサ、近藤さくらの共同ユニットで、柴山アリサが作品の構想をし、近藤さくらがモノを作り、個々の制作では成し得ない創作活動を行っています。  
第一回目は平成25年「くろすわーるど」展を市民ギャラリー矢田にて行い、今回はありさくらとしての第二回目の展示となりました。  
ギャラリー内のspace Aではありさくらとしての作品、「花子と蝶々」を展示し、Space Bでは各々の作品として、柴山アリサ「雨蝶」、近藤さくら「オレンジ」を展示しました。Space Bで個人の作品を展示することにより、ありさくらがどのような要素で構成されているのか、観覧者に提示しました。

事業名：中山梨絵展『存在と錯覚』  
報告者：中山梨絵(美術研究科 博士前期課程 油画・版画領域2年)

私にとって学外スペースを借りての個展は、初めての経験でした。  
博士前期課程に進学してから、私は大作を制作したいと思っており、今回は、ギャラリーくさ笛様からのお誘いもあって、展示する運びとなりました。  
制作期間中は、搬入までの決められた時間内に挑まなくてはならないという緊張感もあり、作品と濃密に向き合うことができました。  
展示期間中は、作品1点1点としての見え方のみならず、展示全体の組み立て方を考える良い機会となりました。また、観に来て下さったいろいろな方の意見を聞くことで、自分の考えが及ばなかったところを鑑賞者は見ていることに気づきました。  
具体的には、狭い空間に対して作品が大きすぎて、作品一個一個が見づらくなっていたことや、絵と同時に展示していた文章の見せ方は効果的かどうかなど、今後の作品展開に繋がるヒントを得ました。  
今回の制作と展示を通して、今後の作品展開を考えると同時に、次の展示へ活かすための良い経験となりました。

事業名：倉田明佳展 幽かな煌めき  
報告者：倉田明佳(美術学部 デザイン専攻4年)

今回の展示は、私にとって初めての個展となりました。  
今まで沢山のグループ展には参加してきましたが、卒業制作前に自分の作品としっかりと向き合い、一つステップアップして次に繋げたいという想いがありました。おかげさまで個展も盛況に終わり、自分の芯となるような部分を確認出来たと思います。自分だけの展示空間を作り上げる事はとても幸せであり、何より作品に対して、そして見てくださる方に対する責任を改めてしっかりと感じる事が出来ました。  
お世話になっている方々に自分が出来る恩返しは、より良い作品を作る努力を続ける事だと思います。  
関わって下さった全ての方々に、心から感謝しております。本当にありがとうございました。

事業名：P.P.P.P展  
報告者：宮坂恵子(美術研究科 博士後期課程 美術領域2年)

『P.P.P.P展』は愛知県立芸術大学博士前期課程・設楽知昭研究室(絵画・現代美術)の2013、2014年度修了者によるグループ展です。大学を修了後は、博士後期課程に進んだもの、就職や結婚をしたものなど様々ですが、皆新たな環境から刺激を受け、その中でもがきながら作品を作り続けています。我々にとって現在は未来への希望を抱くと共に、作家としてどのように活動していくか困難なときもあります。そのような時期に行われた本展示において、共に学んだ仲間との交流により互いの成長から刺激を受けたことは、新たな制作への活力となりました。  
また本展示には、設楽知昭教授にもご参加頂くことが叶い、先生の作品と同じ空間に自身の作品を展示しました。この貴重な機会は、通常とは違う視点から自身の作品を捉えるきっかけとなりました。また、多くの来場者の方々との交流を通じて様々な発見や学びがありました。  
150号の大作を含む25点を展示するため大きな会場が必要となり、参加者にとって負担の大きな企画でしたが、見応えのある展示との褒めの言葉を頂くことができました。今回得た成果や学びを糧とし、より一層制作に励みたいと思います。

事業名：肖俊イラストレーション個展  
報告者：肖俊(美術研究科 博士前期課程 デザイン領域2年)

今回の展示は近年、先生の指導のもとで完成した作品です。  
私のイラストレーションは、日常生活の中でありふれた筆記用具であるボールペンを使用したイラストレーション表現を追求します。ボールペンの油分は素晴らしい材質であり、この研究を通してボールペンによる独自の表現方法を探求していきます。  
私は観覧者に日常生活で使用するボールペン絵が豊かな色彩のある作品を描くことができるということ、同時にボールペンの魅力をあらため感じてもらうのが目的であります。それに、観覧者との交流を通じて、後日の創作の改善につなげてゆきたいです。

事業名：藤井真希・須貝旭『視界に満ちる海』展

報告者：須貝旭(美術研究科 博士前期課程 油画・版画領域2年)

本展覧会は、出品者2人の共通テーマ「絵画でしか体験し得ない視覚の探求」を掲げました。  
様々なメディアが溢れる現代において、実際にその場に赴かなければ見ることのできない絵画作品は非常に不自由なメディアと言えます。しかし、反対に生でしか体験できないことは絵画作品の強みとも考えられます。  
絵画を通じた視覚体験は、眼前に広がる海を前にした時と似ています。どこまでも潜ってゆけそうな深み、光によって変化する海面の表情、淡く見える水平線の遠さ...。その胸を抉られるような実感は、実際に体験しなければわからないものです。  
視界をぐるりと覆う絵の海へ見る人を引き込むことを狙いとし、そうした意図を展覧会名にこめて、18点の絵画を展示しました。  
展覧会のDMは、愛知県立芸術大学デザイン専攻を卒業し現在デザイナーとして活動している野田久美子さんに依頼し制作していただきました。そのDMによる告知の結果、展覧会開催前の1月8日付けの朝日新聞関西版夕刊「A+1」アート情報欄にて紹介していただきました。また、会期中1月16日付けの京都新聞朝刊美術欄に展評が掲載されました。  
同時代ギャラリーは、京都の中心地でもある河原町付近ということもあり、1週間という短い会期にもかかわらず多くの人に訪れてもらいました。  
以上のことから、今後も作家活動を継続していく両名にとって、大変有意義な展示となりました。

事業名：「謝謝シスターZ」

報告者：秋良美有(美術学部 油画専攻3年)

〔企画目的〕3年終了時に4年生進級に向けて、大学の授業では学べなかった外部での展示経験を補う目的で展示を行いました。展示スペースの確保、展示費用の計算、搬入出までの流れを把握することは、卒業制作や卒業後の活動などで必ず必要になります。その時にきちんと作品展示が出来るまでの現場の仕事をそれぞれが体験し、学べる機会を展示という形で行いました。  
〔展示内容〕出展者3名は、芸術祭では「グループ女市未」として一つの作品を作り展示しましたが、今回は「それぞれがそれぞれの作品を展示する」という目的のため個別にテーマを作り、それぞれ作品に沿った展示方法で展示を行いました。秋良は壁一面に利用したインスタレーション、亀倉は床と高い天井を利用した立体作品、大東は壁に立てかけるように作品を設置しました。大学では広い壁、平らな床、高い天井と整った場所がありません。美術館で展示された場合どのように作品が見えるのかを意識し、それが展示方法を考えることで、卒業制作を見据えた新たな視点を得られる機会となりました。  
〔展示報告〕一日当たり40人前後の来客がありました。大学教授、美術家、ギャリスト、一般の方々と、大勢の人々と作品を交え意見交換が出来るきっかけとなりました。また、教授からは作品の話以外にも、今後につながる展示の見せ方を聞くことが出来ました。展示という機会でしか得られない様々な経験を得ることが出来ました。



事業名 : Amici del Canto 2015

報告者 : 川田真由(音楽学部 声楽専攻3年)

この演奏会は、昨年退任された本学声楽専攻教授の二神二朗氏の門下生が、毎年主催して行っていたもので、先生がご退任されてからも、皆で集まって歌おう、という声のもと、今年も企画しました。

在校生だけでなく、卒業生や、現在海外で研鑽を積まれている先輩、また、先生ご自身も出演され、それぞれの歌う場を設ける良きチャンスとなりました。

当日、同大学声楽専攻の仲間たちを中心に多くのお客様に来ていただき、無事終演することができました。学内の方だけでなく、学外の方にもお越しいただき、学外で演奏する機会が少ない中、聴いていただけてとても幸せでした。

このコンサートも、今年で4回目になりますが、「Amici del Canto」の名の通り、歌を身近に感じ、これからもこのコンサートを長く続けていきたいです。

今回は愛芸アシスト基金より助成をいただきありがとうございます。

門下生一同、それぞれの目標に向かって益々精進いたします。

事業名 : Monfavoriピアノコンサート

報告者 : 安田文野(音楽研究科 博士前期課程 鍵盤楽器領域2年)

平成27年6月5日(金)、博士前期課程鍵盤楽器領域2年生の7人で、「愛知県立芸術大学大学院2年生によるピアノコンサート Mon favori」を長久手市文化の家(風のホール)で行いました。私たちは学部生の時から切磋琢磨しながら勉学に励んできました。その中で、これから社会へ出ていく音楽家となるための第一歩として、このコンサートを企画しました。

このコンサートの企画、運営を自ら行ったことで、これから音楽でどのように社会に貢献していくのかを考える良い機会となりました。このコンサートでの経験を生かし、社会に貢献できる音楽家となるため、これからも日々努力を重ねていきたいと思います。

事業名 : 中川真・大和寛司ピアノコンサート

報告者 : 中川真(音楽学部 ピアノ専攻4年)

この演奏会は、私が師事している小杉裕一先生の門下生の大和寛司と共に企画しました。私にとって演奏会を1から全て企画するのは初めてでしたが、試行錯誤を重ね、大和さんと協力して演奏会を迎えることができました。お互いに約1時間のプログラムを用意し、さらにアンコールとして小杉先生の演奏を披露して頂き、その後に私と大和さんがそれぞれ小杉先生との連弾を演奏させて頂きました。特にこの連弾は、私と大和さんが尊敬する小杉先生との共演であり非常に緊張ましたが、その反面非常に楽しい思いをさせて頂き、さらにその楽しさもお客様に伝わっていました。とても貴重な体験となりました。これを機に大和さんとの演奏会第2弾も計画中です。学生の身分で資金的に厳しい中、愛芸アシスト基金の助成のおかげでより積極的に企画を進めることができました。今回の初めての演奏会の企画、愛芸アシスト基金の助成への感謝の気持ちを忘れず、次の演奏会へ繋げていきたいと思います。ありがとうございました。

事業名 : ArnoldStrings

報告者 : 白井薫(音楽学部 作曲専攻音楽学コース 4年)

2015年10月4日に、名古屋市瑞穂文化小劇場にて、「ArnoldStrings」演奏会を開催いたしました。

この弦楽合奏団は、東海地方の大学オーケストラの首席奏者達と愛知県立芸術大学の有志によって結成された、小規模な弦楽合奏の団体です。「夜」をテーマとして、楽曲の持つ知名度に拘らず、演奏機会は少ないが、時代の草分けとなった曲目を取り上げました。また、演奏会にかかるすべてのことを(演奏会のプログラミング、指揮、独奏、プログラムノート執筆など)を一人(白井薫)がプロデュースすることにより、演奏会全体の統一を図りました。演奏会に対するお客様の反応は非常に良く、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。また、チラシを始めとする印刷物を、本学美術学部でデザイン、油絵、陶磁を専攻する三人の協力を得て作成し、それらは非常に評判の良いものとなりました。

今回の演奏会によって、ハイレベルなアマチュア弦楽器奏者の相互交流や、プログラミングや演奏のクオリティによって、愛知のアマチュアオーケストラ文化の発展に一石を投じられたのではないかと思います。

助成をくださった愛芸アシスト様、顧問及びアドバイザーを務めてくださった音楽学コースの安原雅之教授、演奏指導をしてくださった弦楽器コースの百武由紀教授に多大なる感謝をここに申し上げます。

事業名 : 「Dodici amore」

報告者 : 高橋果歩(音楽学部 ピアノ専攻3年)

「Dodici amore 愛知県立芸術大学12名によるコンサート」は平成27年11月7日に開催致しました。私たちは名古屋市立菊里高校音楽科65期生、現在愛知県立芸術大学に在学する12名による自主企画コンサートです。今回のタイトル「Dodici amore」は日本語で12人の愛という意味です。私たち一人一人の音楽に対する愛を、来てくださる皆さんの中に届けることができたら...そんな熱い想いを込めました。

多種の楽器を生かし、各楽器のソロを始め、2台ピアノなどのアンサンブルでプログラムを考えました。私たちは音楽を通して出会い6年目になります。そんな大切な仲間とこうして演奏会を無事終えることができましたのも、愛芸アシスト様を始め、指導して下さった先生方、温かく支えてくれた家族、そして当日お越し頂いた方々のおかげです。本当にありがとうございました。

事業名 : 作品発表会 お布の七役

報告者 : 後藤里菜(音楽学部作曲専攻2年)

平成27年11月15日に、私たちおとみせ屋和奏の作品発表会を無事に終えることができました。昨年、学内にて初演していただいた、私の作曲作品『お布の七役』を発表させていただきました。この作品は歌舞伎の『於染久松色讀版』を題材に、その面白さを音楽を通して再現すること、また器楽奏者が楽器の演奏により役を演じることを目指しました。さらに今回は、演出家の寂光根隅的父さんにアドバイザーをお願いでき、見せ方や間の取り方など演劇的視点からも工夫を加えられました。

今回が私たちにとって初めての発表会で、何もかもが手探りの状態でした。しかし企画や運営をはじめ、大学の授業では学べないたくさんのことを見経させていただきました。そして演奏会が本当に多くの方々の協力のもと

成り立っていることを実感しております。

最後になりましたが、ご支援くださった愛芸アシスト基金の皆様に、心より感謝申し上げます。皆様のご支援無くしては、この発表会の成功はなかったと思います。ご期待にお応えできますよう、今後も精進して参ります。この度は誠にありがとうございました。

事業名 : クオーレムジカ クリスマスコンサート~原点からの贈り物~

報告者 : 福田ゆり子(音楽学部 ピアノ専攻3年)

2015年12月25日、高松国分寺ホールにて、「クオーレムジカ クリスマスコンサート~原点からの贈り物~」を開催致しました。沢山の素晴らしい出会いをプレゼントしてくれた故郷高松で、高校時代の友人と初めての自主企画コンサートができ、嬉しい気持ちでいっぱいです。今回は、ソロ以外に、愛知県芸の同級生に高松に来てもらい、ピアノと弦楽四重奏の室内楽をしたり、管楽器の室内楽をしたり、ボリュームいっぱいのプログラムでした。また、当日はクリスマスということで、クリスマスに因んだ楽曲や、地元高松の民謡に因んだ楽曲など聴衆の皆様に馴染みある曲を披露して、聴衆と一緒にコンサートとなりました。

自主企画だったので、何もかもが0からのスタートで、大変な事や不慣れな点もありましたが、愛芸アシストや沢山の方々のご尽力のお陰でお越し下さったお客様に喜んで頂けました。

当日の本番直前まで、ホールの方や調律師さんと音色の調整をし、ギリギリまで不安でしたが、本番は今までに感じた事のない、客席からのパワー、楽器本来の力、そして作曲家達が遺してくれた素晴らしい曲の力を感じながら演奏できた様に思います。

音楽は一見華やかに見えそうですが、そばかりではありません。辛いこと、悲しいこともあります。ですが、音楽を通じて、沢山の人との出会いがあり、その喜びに支えられ、今があります。

これからもそんな音楽をずっと続けられる様、精進していきたいと思います。ありがとうございました。

事業名 : 13人の女学生からあなたへ~音楽の贈り物~

報告者 : 松原瑠美菜(音楽学部 ピアノ専攻4年)

「13人の女学生からあなたへ ~音楽の贈り物~」は、高校入学から現在までの約7年間同じ環境で過ごしてきた愛知県立芸術大学音楽学部生13人による自主企画コンサートです。多くの方に応援いただき、今回で第二回目を迎えることができました。

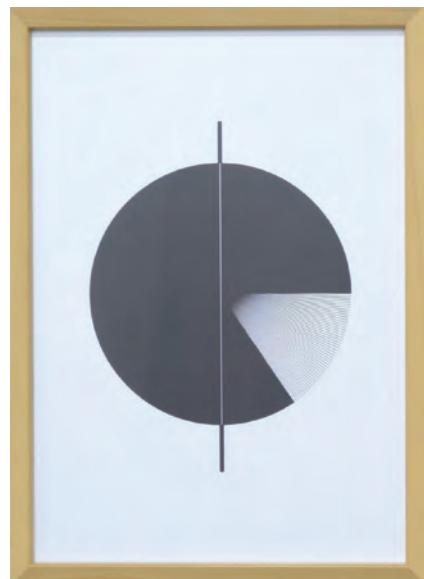
第一回と同じく、わたしたちがこの演奏会でテーマとしたのが、「贈り物」というキーワードです。「お客様の心に、そっとやさしく寄り添うような音楽をお届けしたい」「わたしたちの音楽により、贈り物を受け取ったときのようなどこか特別な、あたたかな気持ちになってほしい」...ピアノ、ヴァイオリン、フルート、声楽と楽器も様々で、編成も多種多様なアラカルトコンサートですが、このひとつの想いを共有することで、どのプログラムにおいても、わたしたち自身あたたかい気持ちで、音楽をお客様と共有することができました。実際、終演後のアンケートでも、「贈り物を受け取りました。」と書いてくださった方が何名もみえ、想いは少しでも伝わったのだなと、心から嬉しく思いました。

また今回は第一回の経験を活かし、転換時など柔軟にMCを入れたり、オペラ作品では演技をつけて親しみやすくするなど、一般的のクラシック演奏会より音楽を身近に楽しんでいただけるような工夫ができました。このように、前回の経験を活かして、演奏会を重ねることで成長できたということは、とても幸せなことだと思います。金銭的にも、このような短い期間に二回演奏会を開くということは、簡単ではありません。わたしたちの力だけでは作り上げられなかったものです。あらためて、愛芸アシストをはじめ様々な方のご協力に、そしていつも応援してくださる皆様に、感謝申し上げます。

来年からは「女学生」でないメンバーも多いですが、この企画はこれからも続けていきたいと考えております。次に開催できるその日まで、ひとりひとり練習に励んでまいります。

いつかどこかで、より素敵なお贈り物を、皆様にお届けできることを願って。





学長賞



同窓会長賞



サテライト賞



本年で十二支の半分の第6回となる干支展が、本学美術学部同窓会 及び 本学を主催者として、平成27年11月14日(土)から11月22日(日)まで、栄サテライトギャラリーにて開催されました。

従来からの学長賞に加え、同窓会長賞が選出されました。また来場者からの投票によるサテライト賞は3名が受賞しました。

(愛芸アシスト基金事務局)

テーマ	出展数	販売数	入場者
平成22年 兔	54	30	213
平成23年 辰	64	38	238
平成24年 巳	102	48	175

テーマ	出展数	販売数	入場者
平成25年 午	71	44	206
平成26年 未	58	39	159
平成27年 申	48	33	134

#### 01 オペラ公演「皇帝ティートの慈悲」 支援額:150万円

平成28年12月3日(土)、4日(日)に長久手市文化の家にて、モーツアルト作曲「皇帝ティートの慈悲」を公演します。総合芸術大学である本学の力を結集した一大イベントにご期待ください。

#### 02 愛・知・芸術のもりから 支援額:45万円

SMBCパーク栄にて、本学のOB・OGによる演奏会を開催します。名古屋市の中心、栄の現代的建物で行われる演奏会は、若い熱気と活気に満ち溢れています。

#### 03 芸術資料館収蔵品展「創立50周年記念コレクション展 豊富な半世紀—学びと成果—」 支援額:20万円

今年度、創立50周年を迎えた愛知県立芸術大学では、創立以来、数多くの作品を蒐集してきました。「教育に資すること」を目的に蒐集された本学のコレクション「教育参考品」「優秀作品賞受賞作品」を展覧します。

#### 04 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援 支援額:240万円

栄の愛知県立芸術大学サテライトギャラリーにて開催される本学主催の展覧会です。4,000人を超える方々に来場していただいておりますが、皆様のご支援をいただき無事に運営を続けています。

#### 05 学生への公募 支援額:60万円

本学学生が主体的に企画・運営に関わる対外的な演奏会や展覧会などを対象に公募を行い、審議の上、妥当と認めたものには、一部の活動資金を支援しています。年々、意欲的な企画が寄せられるようになったことから、今年度より、助成金額を拡大します。また、1グループ最大2万円だった助成額を、15万～30万円に変更し、より優れた企画に集中的に厚く支援をすることによって、学生の企画力・プレゼン力の育成を支援します。

#### 06 「芸術祭」での講演会 支援額:15万円

平成28年11月3日(木)から11月5日(土)本学で開催される「芸術祭」に、芸術祭実行委員会から学外者へ講演を依頼します。本学OB・OGをはじめ、国内外で活躍する作家・アーティストに講演をいただく機会を支援しています。

